

本市では、土岐市駅の北へ徒歩 10 分の位置にある国指定史跡「乙塚古墳附段尻巻古墳」の整備を進めていますので、取組みの状況を紹介します。

## 1 経緯

乙塚古墳は、岐阜県東濃地域において最大規模の横穴式石室をもつ古墳で、隣接する段尻巻古墳と併せて美濃の後期古墳を考えるうえで重要な遺跡であるとして、昭和 13 年 12 月 14 日に国の史跡指定を受けました。その後土岐市は、昭和 47 年に乙塚古墳にかかる史跡指定地を公有地化しました。さらに、平成 24 年 12 月までに段尻巻古墳にかかる史跡指定地及び隣接地の公有地化を進め、史跡指定地全体及び隣接地を公有地化しました。

平成 12 年に段尻巻古墳、14 年に乙塚古墳の詳細地形測量調査を実施し、これまで円墳とされてきた乙塚古墳は方墳であることが確認されました。このほか、ガラス棒調査による石室の経年変化モニタリングやレーザー計測・目視調査により、両古墳とも雨垂れや漏水を示すサインが確認されたものの、大きな経年変化を示しておらず石室は比較的安定していることが確認されました。

平成 26・27 年度に発掘調査を実施し、調査の結果、段尻巻古墳の石室から残存状態の良好な礫床が確認され、また両古墳の墳丘及び石室の規模が確定されました。なお、両古墳とも周溝、葺石、外護列石、段築については確認されませんでした。

土岐市教育委員会は、2 基の古墳を適切に保存管理し後世に引き継ぎ、併せて史跡の整備活用を推進し、地域の人々が文化財に親しみ、学ぶことができる環境整備を行い、地域の活性化に寄与することを目的とした整備を進めることとしました。

整備の方向性や古墳の保存整備手法等を検討し、平成 25 年度に『史跡乙塚古墳附段尻巻古墳保存管理計画書』、平成 28 年度に『史跡乙塚古墳附段尻巻古墳整備計画（基本構想・基本計画）』、平成 29 年度に『史跡乙塚古墳附段尻巻古墳基本設計書』、平成 30 年度に『史跡乙塚古墳附段尻巻古墳実施設計書』を策定しました。これらを踏まえ、本年度に整



整備前の両古墳（H17.10.14 撮影）※手前が乙塚古墳

備工事を開始しました。

## 2 整備事業

乙塚古墳附段尻巻古墳は3期に分けて整備事業を行います。

本年度は乙塚古墳の墳丘、石室及び広場の整備を行っています。墳丘は現在、長年風雨にさらされて一部が崩れており、石室への漏水があるため、盛土とシートによる墳丘の整形と遮水を行い、コグマザサを植栽します。石室には築造当初、礫床が床面に敷き詰められていましたので、その様子を見学できるように復元し、玄室の手前まで入れるようにします。広場には大きな段差があるため、盛土により平らに均し、広場から石室前まで見学通路を造ります。

令和2年度は段尻巻古墳を整備します。墳丘の整備内容は乙塚古墳と同様ですが、入口の天井石が割れており、昭和40年代に補強のため差し込まれた鉄パイプで支えられているなど危険なため、天井石を一旦降ろして割れ目をつなぐ補修を行い、鉄パイプを外して天井石を本来の状態へ戻します。また、石室内の本物の礫床を見学できるように堆積土を取り除きます。広場も乙塚古墳と同様に整備します。

令和3年度は乙塚古墳の下段にある市有地に見学者用のトイレと駐車場を整備し、史跡全体に案内看板やベンチ等を設置します。墳丘や石室内等に安置されていた石造物を駐車場の東側へ移設し、引き続き地元の方がお祈りをできるようにします。

全体事業費は約1億5千万円を予定しております（設計費、工事監理費等を含む。）。



完成予想鳥瞰図